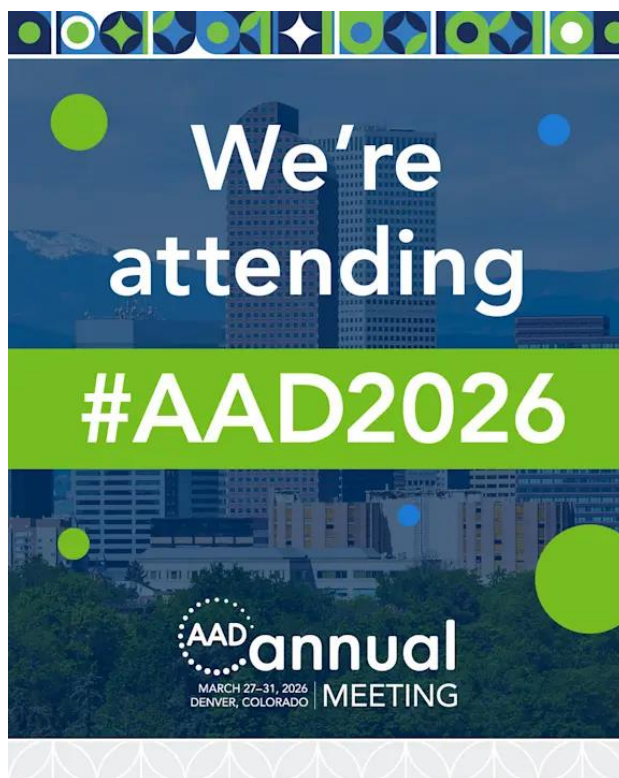


3月27日～31日にコロラド州デンバーで開催の
2026AAD米国皮膚科学会 年次総会にて発表
**IPL施術後の皮膚に対するスキンケアレジメン（ローション・ゲル・
日焼け止め美容液）の有効性を臨床的に確認**

一人一人の無限の美しさの可能性を引き出すことを理念に展開する美容皮膚科学発のスキンケアブランド、ドクターシーラボ® (<https://www.ci-labo.com>) は、2026年3月27日～31日にアメリカ合衆国コロラド州デンバーで開催された2026AAD米国皮膚科学会 年次総会にて、IPL（Intense Pulsed Light）施術後の皮膚に対するスキンケアレジメンの有効性および忍容性に関する研究成果を発表いたしました。

本研究では、ローション・ゲル・日焼け止め美容液の3製品を組み合わせたスキンケアレジメンをIPL施術後14日間使用した際、皮膚バリア機能の改善や紅斑（赤み）の軽減など、複合的な肌改善効果が確認されました。



■ 学会発表の背景

近年、美容医療の普及によりIPLをはじめとした施術は身近な存在となっています。一方で、施術後の肌はバリア機能の低下や炎症、乾燥などの影響を受けやすく、適切なアフターケアが治療効果の最大化に不可欠とされています。

ドクターシーラボ®では、こうした課題に対し「施術後の肌回復をサポートし、かつ美容効果を最大化するスキンケア」の必要性に着目。本研究を通じて、補助的スキンケアの有効性を科学的に検証しました。

■ 研究概要

本研究は、通常肌および敏感肌の被験者46名を対象に実施された臨床研究で、顔の左右で異なるスキンケアを行う「split-faceデザイン」を採用しました。

- レジメン群：
ローション+ゲル（1日2回）+日焼け止め美容液（1日1回）
ローションとゲルには AHP（アセチルヒドロキシプロリン）を配合。
日焼け止め美容液には 377（フェニルエチルレゾルシノール）を配合し、独自シールド技術「スマートレイヤーズ™」を搭載したものを処方
- 対照群：
基剤+日焼け止め美容液のみ

施術後 14 日間にわたり、以下の指標を評価しました：

- 皮膚水分量
- 経表皮水分蒸散量（TEWL）
- 肌のトーン（ITA値）
- 紅斑（赤み）

■主な研究結果

ドクターシーラボ®では、敏感肌を穏やかに整え、バリア機能をサポートし、保湿等を叶える成分として「AHP」、またメラニン生成抑制や美白効果をサポートする成分として「377（フェニルエチルレゾルシノール）」に注目。「AHP」をベースとするローション・ゲル、「377（フェニルエチルレゾルシノール）」をベースとし独自シールド技術「スマートレイヤーズ™」を搭載した日焼け止め美容液を組み合わせたスキンケアレジメンは、IPL処置後の患者にとって、皮膚水分量の向上、肌色の改善、赤み・炎症の軽減、バリア機能の回復といった多面的な効果をもたらす最新処方であることが確認されました。

さらに、日焼け止め美容液の単体を使用した場合と比較して、紅斑と肌色が有意に改善し、さらには、IPLの副作用を最小限に抑え、施術後の弱った肌に塗布しても肌にダメージを与えずに使用できる可能性が示唆。このことから、ライフスタイルに応じたケア選択の可能性も示唆されています。

① 皮膚水分量、皮膚バリア機能の改善

レジメン使用により、皮膚水分量が有意に増加し、皮膚バリア機能の指標（TEWL）は有意に低下。

→ 肌の保湿力とバリア機能の回復を確認。

② 紅斑（赤み）の軽減

IPL施術後に生じやすい赤みについて、敏感肌および普通肌ともに、レジメン群では有意な低減が確認されました。

③ 肌のトーンの改善

肌の明るさの指標（ITA値）においても有意な改善が見られ、くすみの軽減・透明感向上への寄与が示唆されました。

④ 高い安全性・忍容性

全被験者において良好な忍容性を確認し、有害事象は一切なし。

100%の被験者が「刺激が少なく施術後に適している」と回答しました。

■有効成分、技術の特徴

●AHP（アセチルヒドロキシプロリン）

- セラミド産生を促進

- バリア機能改善・保湿効果
- 施術後の肌回復をサポート
- 377（フェニルエチルレゾルシノール）**
 - メラニン生成抑制
 - 美白効果をサポート
- スマートレイヤーズ™技術**
 - UV防御の外側のプロテクションレイヤーと内側のスキンケアレイヤー構造を持つ
 - 肌への負担を抑えたUV防御剤処方

本研究成果をもとに、ドクターシーラボ®は、美容医療とスキンケアの融合をさらに推進し、施術後ケアの新たな価値提供を目指してまいります。